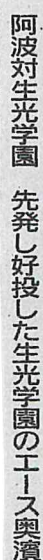


高校野球の第103回全国選手権徳島大会第12は23日、鳴門オロナミンC球場で準々決勝2試合が行われ、徳島商と生光学園が準決勝進出を決てベスト4が出そろった。第1試合は徳島商が1-2で富岡西に逆転サヨナラ勝ち。第2試合は光学園が3-1で阿波を下した。第13日は1日休養日を挟み、25日に同球場で池田一生活学園阿南光一徳島商の準決勝2試合が行われる。

ベスト4  
出そろう



▽同(第2試合)

阿波	00
生光	00
園	30
	00
	00
	00
	00
	00
	×1
	<hr/>
	31

【評】序盤に先制点をグ本塁打で3点を先取

拳げた生光学園が奥濱、  
 春藤の継投で逃げ切つた。  
 三回、奥濱の右犠飛  
 で吉田の左中間ランニン  
 九回到二番手春藤がソロ  
 本塁打を浴びたが、後続  
 を断つた。阿波は四回二  
 死一、三塁の好機を生か

せず、九回に田住が放った右越え本塁打の1点にとどまつた。

	【阿波】	打安点振球
⑧	阿部	420001
⑦	阿部	434001
⑥	大塚	400010
⑤	吉岡	441000
④	坂東	410030
③	近中	442120
②	竹内	200011
①	盗併	036110
犠失残	117	261102

[illegible]

▽本塁打＝田住（春藤）  
吉田（竹内）▽二塁打  
＝空處▽試合時間＝2  
時間13分

投竹	手回	打安振球賣
.....	内8	348433
奥	濱6	245710
喜	藤3	111311



# 3戦連続継投決まる 生光学園

生光学園は、1回戦から3戦連続となる右腕エース奥濱、右スリークオーター春藤の投手リレーで、ロースコアの試合をものにしたい。

先発の2年生奥濱は、直球を狙う阿波打線に対し、カーブ、スライダーでカウントを稼ぎ、要所で130メートル後半の直球を使った。「打たせて取ることだけを考えて」と、6回を無失点。三回には自ら右横飛で先制点を挙げ、笑顔を見せた。継投のタイミングは、

幸島監督が投球数をにらみながら決めた。奥濱は20日の2回戦で100球を投げ、この日も6回を終えて98球。指揮官は「週間500球の投球制限を考えると、25日の準決勝、26日の決勝で300球は残しておきたい」と理由を明かす。

三回、吉田が外角直球を逆方向に放った打球が左中間2点ランニング本塁打となり、2点を追加した。だが、四回以降も走者を出しながら追加点を奪えずにいた。3点は

セーフティーリードではない中、七回からマウンドを引き継いだ春藤は、130メートル前後の直球と変化球を丁寧に分け、失点は九回のソロ本塁打のみと期待に応えた。投手の練習メニューは

首脳陣が決めていたが、今春から各選手自らが考えるようになった。奥濱は夏の連戦に備え大会前に走り込みを増やし、体力がアップしたという。「やらされる練習ではなく、自分で決めたメニューだから特に身に付く」

と春藤は言う。

準決勝の相手は、本格派右腕篠原を擁する池田。奥濱は「失点を抑える」、春藤も「自分の仕事を果たすだけ」。2人は投手戦を見据え、気合を込めた。(木村恭明)